

Light Solutions for Life®

第40期 中間報告書

2014年6月1日 ▶ 2014年11月30日

Contents

- 株主の皆様へ
- セグメント別の概況
- ピックアップ
- 株主アンケート結果報告
- トピックス(社会貢献活動)
- 決算概要(連結)
- 株式の状況/会社概要

経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。

光ソリューション・カンパニーとして長年培ってきた中核技術を
複合・融合した「ものづくり」によってお客様の「欲しい」を形にし、
「アジアNo.1」から「世界No.1」となるべく積極的に展開いたします。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

<社是>

「感謝」 「挑戦」 「創出」

当社は、創業以来、レーザ用光学要素部品・光学システム製品の商品企画・開発から試作、量産、検証、教育までワンストップでサポートする真の「ものづくり」企業としての弛まぬ技術革新と価値ある製品の提供によって、社会へ貢献することに取り組んでおります。

皆様の暮らしの様々な分野を光で支える「光ソリューション・カンパニー」としての使命、そして「感謝」「挑戦」「創出」の想いを胸に、お客様満足度の最大化を目指すとともに、持続的な成長と企業価値の向上に最善の努力をいたす所存でございますので、今後ともよろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 **近藤 洋介**

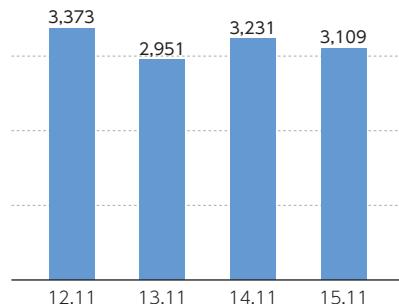


当第2四半期の業績(連結)

売上高 31億9百万円

(前年同期比 3.8%減)

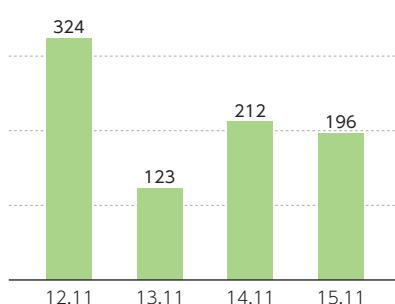
(単位:百万円)



経常利益 1億96百万円

(前年同期比 7.5%減)

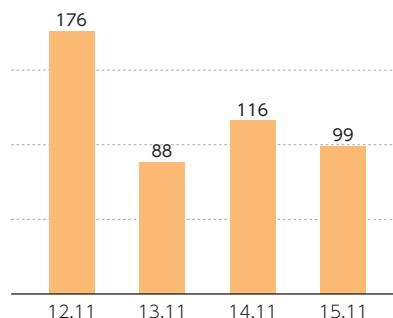
(単位:百万円)



四半期純利益 99百万円

(前年同期比 14.4%減)

(単位:百万円)



当第2四半期決算のポイント

国内の消費低迷と企業の設備投資抑制等の影響を受け前年同期比で売上高が減少

当第2四半期は、レンズユニット製品の展開強化、アジア・米国・欧州の有力成長市場の深耕等の成長戦略を強力に推進いたしました。消費増税や急速な円安進行に起因した国内消費の低迷と中小企業の設備投資の抑制等の国内の景気減速の影響を受けております。その結果、足元の受注環境は改善傾向にありますが、当第2四半期の売上高は前年同期比で減収となりました。

材料費等の原価低減を徹底するも減収分の落ち込みをカバーしきれず各利益とも減少

継続的に取り組んでおります材料仕入の圧縮や外注加工費、労務費の抑制などの原価低減策の効果が徐々に表れてきていますが、減収分の落ち込みをカバーするには至らず、また積極的な事業展開により試験研究費や海外向け運賃荷造費等が増加いたしました。その結果、営業利益・経常利益・四半期純利益ともに前年同期比で若干減益となりました。



通期の業績見通し(連結)

2015年5月期連結業績予想

※2014年7月7日に公表いたしました2015年5月期第2四半期累計期間及び通期の業績予想(連結・個別)を2014年12月25日付にて修正しております。詳細は、当社ホームページでご確認ください。
<http://www.sigma-koki.com/>

売上高	68億50百万円 (前期比1.9%増)
営業利益	4億40百万円 (前期比22.0%増)
経常利益	5億40百万円 (前期比10.3%増)
当期純利益	3億5百万円 (前期比3.5%増)

02 セグメント別の概況

▶ 要素部品事業

売上高(第2四半期累計期間)

※内部売上高を含んでおります。

(単位：百万円)



2.2% 減

(前年同期比 7千5百万円減)

大学・独立行政法人向け研究開発分野においては予算執行に慎重な動きが見られ、売上は軟調に推移いたしました。国内及びアジア地域における携帯端末市場に関連する半導体・FPD業界向けの加工・検査用途やアライメント調整用途での組込み用の手動位置決め製品及び光学素子製品の需要は一部増加いたしました。自動位置決め製品の売上が低調に推移いたしました。なお、米国地域のバイオ・医療業界向けの組込み用途向け製品や欧州地域の研究開発分野及び産業分野向け製品については売上が堅調に推移いたしました。

▶ システム製品事業

売上高(第2四半期累計期間)

※内部売上高を含んでおります。

(単位：百万円)



9.8% 減

(前年同期比 4千8百万円減)

民間企業向け研究開発分野での光学ユニット製品及び光学測定・分析装置製品とバイオ業界向けの観察光学系システム製品の需要は徐々に増加傾向にあります。国内産業分野における研究開発投資・新規設備投資の慎重な動きにより売上高は低調に推移いたしました。携帯端末市場に関連する半導体業界向け検査装置用やモバイル用FPD業界向けの組込み用途のレンズユニット等の光学ユニット製品については、海外市場を中心に需要は堅調に推移いたしました。全体の落ち込みをカバーするまでには至りませんでした。

03 ピックアップ

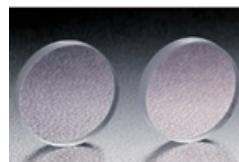
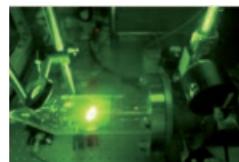
● スーパーミラー開発事業が官学連携助成事業に採択されました。

この度、当社が取り組んでいる「超高反射率・低損失レーザミラーの開発」が、東京大学先端科学技術研究センター（東大先端研）と石川県産業創出支援機構（ISICO）が推進する共同研究創出支援事業に採択され、今後1年間の助成金を受けることになりました。

今回採択いただいた「超高反射率・低損失レーザミラーの開発」には、ミラーの基板表面の凹凸を極限まで滑らかにする研磨技術や、光散乱損失が極めて少なく高出力のレーザ光にも耐えられる表面コーティング技術が必要となります。

現在、当社では反射率99.999%の「スーパーミラー」を製品カタログに掲載しておりますが、今後東大先端研の先生方と共同でさらなる技術革新を行い、より高性能な「超高反射率・低損失レーザミラーの開発」に取り組んでまいります。

また、今回の開発によって生み出される研磨技術・コーティング技術の向上は、干渉計やレーザ加工システムの高性能化・大型化への活用が期待されます。



第39期報告書で実施させていただきましたアンケートにおきましてお寄せいただきましたご意見・ご要望等は、今後の会社経営及びIR活動に活かしてまいります。

株主様からのご質問

Q グローバル展開などで、もっと成長を加速してほしい。収益力の改善を強く期待する。

A 当社では、2014年4月に欧州で販売子会社が事業を開始し、米国の販売子会社とともにグローバルマーケットへの展開を強化しております。特に海外市場では、代理店様経由での販売網を拡充しており、今後の売上貢献の拡大が期待されます。また、当社中核技術を複合・融合した製品開発を進め、産業分野のOEMやレポート案件の獲得に向けた積極的な提案営業を展開しております。

Q 技術開発、商品開発を怠らずにしてほしい。また、もっと会社をPRしてほしい。

A P3にごぞいますように、今般当社開発事業が官学連携の共同研究創出支援事業に採択され助成金を受けることが決定いたしました。当社では、中核技術である光学設計・研磨・薄膜技術の高度化とともに、当社グループの総合力を活かして機械加工・電気設計・位置決め制御技術等を融合した新製品開発にも取り組んでおり、今後ホームページやプレスリリースを通じて適宜ご案内してまいります。

ご意見・ご要望のご紹介

- 業績向上に努めて、安定配当という形で株主に還元してください。
- 業績の安定と、景気に左右されない事業の創出をお願いします。
- もっと技術を分かりやすく教えてほしい。
- 知名度を上げ株主を増やす方法として株主優待を検討して頂きたい。
- 事業内容が魅力的なので、もっと会社のアピールをして株主を増やしてください。
- 安心して長期保有できる、コンプライアンスを重視した経営を行ってほしい。

トピックス(社会貢献活動)

05

当社では、東京大学を中心として発足した大学院教育プログラムの「先端レーザー科学教育研修コンソーシアム(CORAL)」をはじめ大学や専門学会等での講義及び実習の実施や、企業や大学・自治体と連携した「レーザ安全セミナー」の開催等により、光科学分野の人材育成と光技術の発展に取り組んでいます。また、地域貢献活動の一環として、地域の小・中学生を対象とした「光の寺子屋(出張科学教室)」活動や工場近隣の中学生による職場体験等を行っています。



先端レーザー科学教育研修
コンソーシアム(CORAL)



光学実践講座(徳島大学)



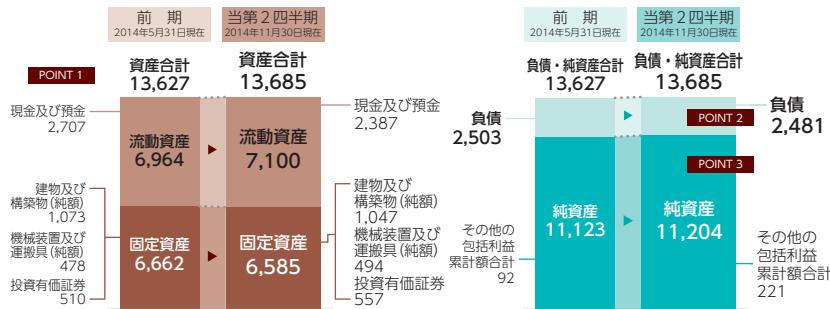
光の寺子屋(出張科学教室)



レーザ安全セミナー(大阪)

■ 連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)

**POINT 1**

資産の変動

流動資産は、有価証券、棚卸資産がそれぞれ増加し、現金及び預金、受取手形及び売掛金がそれぞれ減少したこと等により、前期末比で2.0%増加いたしました。

固定資産は、投資有価証券が増加し、投資不動産、繰延税金資産、建物及び構築物がそれぞれ減少したこと等により、前期末比で1.2%減少いたしました。

POINT 2

負債の変動

流動負債は、短期借入金、支払手形及び買掛金がそれぞれ増加し、未払法人税等が減少したこと等により、前期末比で8.9%減少いたしました。

固定負債は、長期借入金が増加したこと等により、前期末比で12.9%増加いたしました。

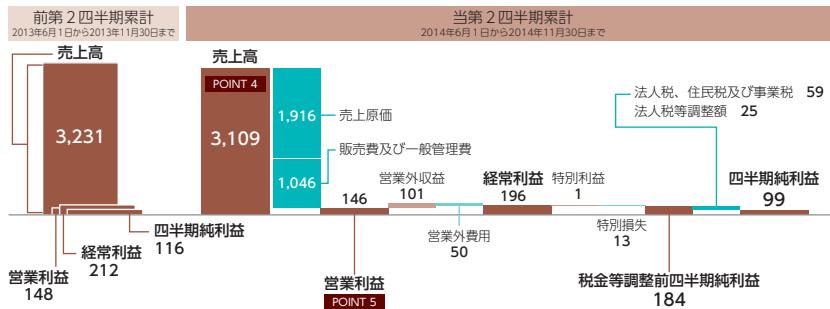
POINT 3

純資産の変動

純資産は、前期末比で0.7%増加いたしました。また、自己資本比率は81.6%となりました。

■ 連結損益計算書の概要

(単位：百万円)

**POINT 4**

売上高の動き

大学・独立行政法人向け研究開発分野においては予算執行に慎重な動きが見られ、軟調に推移いたしました。民間企業向け研究開発分野及び産業分野においては、携帯端末市場に関連する半導体・FPD業界向けや米国市場のバイオ・医療業界向けの組込み用途の光学要素部品や光学システム製品は堅調に推移しましたが、国内市場における研究開発投資・新規設備投資の慎重な動きの影響を受け、前年同期比で3.8%の減収となりました。

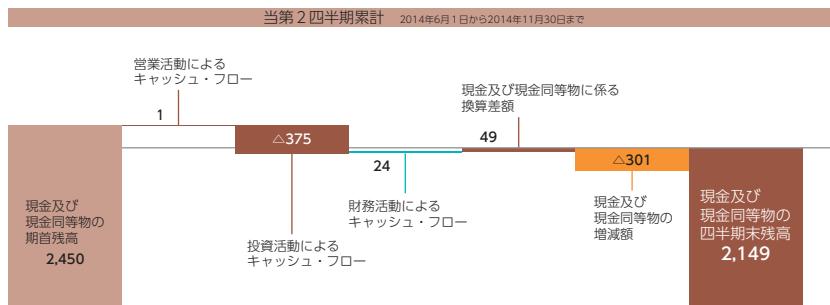
POINT 5

営業利益の動き

生産の効率化、内製化の促進、購買機能の強化等による生産コストの圧縮や全般的な経費削減の効果は表れつつも、減収分の落ち込みをカバーするには至らず、前年同期比で1.4%の減益となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)

**POINT 6**

キャッシュ・フローの状況

営業CFは、売上債権の減少により増加するも、税金等調整前四半期純利益の減少、棚卸資産の増加による減少、法人税等納付額の増加等により増加いたしました。

投資CFは、有形・無形固定資産の取得額の減少等により減少いたしました。

財務CFは、配当金の支払いにより減少するも、借入資金の純増加により増加いたしました。

■ 株式の状況 (2014年11月30日現在)

- ①発行可能株式総数 32,000,000株
 ②発行済株式の総数 7,811,728株
 ③株主数 3,578名
 (前期末比182名増)
 ④主要株主

株主名	所有株数 (千株)	持株比率 (%)
浜松ホトニクス株式会社	1,000	13.27
森 聡二	720	9.56
シグマ光機取引先持株会	453	6.01
シグマ光機従業員持株会	241	3.19
株式会社埼玉りそな銀行	203	2.69
富国生命保険相互会社	200	2.65
株式会社サンライズクリエート	164	2.18
竹田本社株式会社	152	2.02
杉山大樹	131	1.74
株式会社三井住友銀行	110	1.46

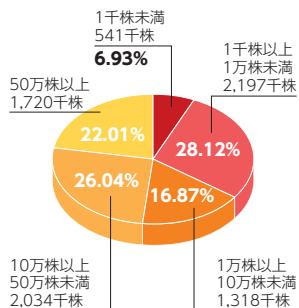
- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。
 3. 持株比率は、自己株式(279,328株)を控除して計算しております。

■ 会社概要 (2014年11月30日現在)

社名	シグマ光機株式会社
本社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2
設立	1977年(昭和52年)4月
資本金	26億2,334万円
従業員数	330名
役員	代表取締役会長 森 聡二 代表取締役社長 近藤 洋介 取締役 菊池 健夫 取締役 中村 良二 取締役 小林 祐二 常勤監査役 大野 昭夫 常勤監査役 山口 秀一 監査役 大野 隆久 監査役 野崎 昭司

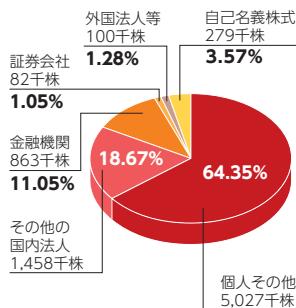
- (注) 1. 小林祐二氏は社外取締役であります。
 2. 大野昭夫氏、大野隆久氏及び野崎昭司氏の3氏は社外監査役であります。
 3. 常勤監査役 大野昭夫氏は、独立役員であります。

所有株数別株式分布状況



- (注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

所有者別株式分布状況



❖ 主な事業所

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
- 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

❖ 関連会社

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- 上海西格瑪光机有限公司
- タックコート株式会社

当社の中間報告書は、「UDフォント」を採用しています

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザイン(UD)書体を使用し、弱視・老眼等視力の低下にお悩みの方にも読みやすいよう配慮をしております。

文字使用例

(従来) S36 (今回) S36

株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
電子公告URL <http://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<http://www.smb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます。)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7713

いいかぶ

検索

 空メールにより URL自動返信 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

 携帯電話からもアクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)

※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

 **シグマ光機株式会社**
東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

 UD
FONT

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C013080

 VEGETABLE
OIL INK